

天然フラボノイドの神経変性疾患治療剤としての展開

神経内科学 足立弘明、元神経内科学 黄哲

利用分野

アルツハイマー病、パーキンソン病、運動ニューロン病等の神経変性疾患の病理学的特徴は、異常なタンパク質の蓄積である。オートファジーによる病因タンパク質の選択的な分解機構を利用した疾患の治療法である。

シーズ

オートファジーを強力に促進し得る物質を用いた神経変性疾患の新規治療剤である。本治療剤を用いることで、オートファジーの活性化を促し、異常タンパク質の蓄積を抑制することが可能となる。その結果、発症メカニズムにもとづいた神経変性疾患の治療や予防を可能とする。

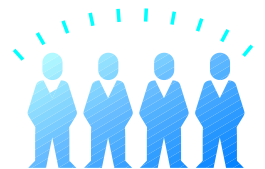


ニーズ

アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、ハンチントン病などの神経変性疾患では、神経細胞内に細胞毒性がある異常タンパク質が蓄積し細胞死を引き起こす。細胞内異常タンパク質の分解を促進し、発症を抑制する治療法は確立されていない。

連携分野

神経変性疾患領域での研究開発を重点領域とする製薬メーカーとの連携を希望する。



知財保護

特願2019-514545、PCT/JP2018/016668



長期に及ぶ治療では、副作用の抑制が欠かせない



本学マスコットキャラクター
ラマティー